

和歌山だより

平成27年
(2015) 2月号



まりひめ (紀の川市)

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P10
3. お知らせ…………… P11
4. ふるさと歳時記…………… P12～P13

国体の男女総合優勝に向けて好スタートが切れました！



続々と日本一

和歌山県立博物館が内閣府の「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者」の、しかも最高賞の内閣総理大臣表彰を受けました。手でじかに触れる仏像のレプリカや点字による図録を作り、視覚障害のある方にも文化財を鑑賞してもらおうとしたものです。さらに嬉しいのは、県立和歌山工業高校と3Dプリンターの利用で協力し、県立盲学校教員の助言を受けて点訳図録を作った事です。多くの人々の知識と善意と協力が生きています。

このところ、このように県民の方がそれぞれ頑張られた事が、全国で、あるいは世界で賞賛されるケースが頻発しています。世界的にも有名な旅行ガイド誌「ナショナル ジオグラフィック トラベラー」が「2015年に訪れるべき世界のベスト20の場所」に高野山を日本でただ一つ選んでくれましたし、旅行雑誌「じゃらん」は白浜町の「リヴァージュ・スパひきがわ」の露天風呂を「風呂宿大賞」に選んでくれました。各地でパンの店を展開する「カワ」の「まるごと！紀州梅バーガー」が「全国ご当地バーガーグランプリ」で日本一のハンバーガーに選ばれましたし、和歌山が誇る「紀州うめたまご」が「卵かけご飯25種食べ比べランキング」で、日本一に輝きました。また、有田市の「早和果樹園」が農林水産省の「6次産業化優良事例表彰」で最高賞の農林水産大臣賞をもらいました。

県庁の職員も頑張っています。津波の際のリスク別の避難場所指定が政府で賞賛されているし、県独自で作った避難勧告などの発令基準は今や政府が全国に指導する基準となっています。県で考案した過疎集落再生・活性化支援事業や県で先べんを付けた危険ドラッグ対策の条例は、今や国を動かして国の政策に取り入れられようとしています。

続々と和歌山が日本一です。県民の皆さんがそれぞれの持ち場で最高に頑張っている姿が段々と世に現れ始めているのです。次は、紀の国わかやま国体でも日本一をめざしましょう。



1/16 「企業の森」調印式にて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●第70回国体冬季大会において和歌山県選手団大活躍

・先月号でもお知らせしましたが、1月28日から2月1日にかけて「第70回国民体育大会 2015 ぐんま冬国体」のスケート競技・アイスホッケー競技が実施されました。

・33年ぶりに国体に出場したアイスホッケー競技では、1回戦の沖縄県戦で県勢初勝利を収めました。続く2回戦では長野県に惜しくも敗れ、準々決勝進出はなりませんでしたが、県内にアイスリンクがない中、県外のリンクで深夜まで練習を重ねた選手の皆さんは、最後まで諦めず、熱のこもった試合を展開しました。また、スケート競技では、選手の皆さんの活躍により多くの種目で入賞を果たし、県選手団は昨年の得点を大きく上回る男女総合得点56点(参加点を含む)を獲得、現在19位につけています。

・2月20日からは、スキー競技も始まります。冬季大会の得点は、「紀の国わかやま国体」の総合点に加算されますので、男女総合優勝を目指して、引き続き御声援をお願いします。

○2015 ぐんま国体 入賞者

(順不同、敬称略)

競技	種別	種目	順位	氏名	所属
スピードスケート	成年女子	500m	2位	大森 亜珠香	JA紀州
		1000m	5位		
		500m	8位	梅川 風子	JA紀州
		3000m	4位	歸山 麻衣	JA紀州
		3000m	5位	藤村 あゆみ	(株)タカショー
		2000mリレー	2位	梅川、歸山、藤村、大森	
ショートトラック	成年男子	500m	3位	坂爪 亮介	(株)タカショー
		1000m	7位		

●炬火トーチ・炬火受皿が完成！！

・紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の開・閉会式や、両大会の開催に向けた気運を高めるため各市町村で実施する炬火の採火式などの炬火イベントで使用する「炬火トーチ」と「炬火受皿」が完成しました。

・このデザインは、「和歌山の魅力」をテーマに昨年度募集したところ、炬火トーチ178作品、炬火受皿162作品の応募があり、「炬火トーチ」は熊野御燈祭の松明をモチーフとしたデザイン、「炬火受皿」は那智の火祭(扇祭り)の大松明をモチーフとしたデザインを最優秀賞として採用しています。

・炬火とは、オリンピックでいうところの聖火にあたり、紀三井寺公園陸上競技場の炬火台に点火され、両大会の会期中、選手の活躍を見守る火となります。炬火トーチは、紀三井寺公園陸上競技場の炬火台に点火する際や、各市町村で実施する炬火イベントで起こした火を採火するために使用されます。炬火受皿は、炬火イベントにおいて各市町村で採火した火を灯すために使用されます。和歌山らしい「炬火トーチ」と「炬火受皿」で、様々なイベントでの和歌山の魅力発信が期待されます。



●高野山開創1200年記念「弘法大師・空海シンポジウム」を開催しました

・1月17日、明治大学アカデミーホール(東京都千代田区)において、高野山開創1200年にあたる今年、弘法大師・空海の人物とその偉業を広く知っていただくことを目的に、「弘法大師・空海シンポジウム～お大師様が御座します高野山～」を県、金剛峯寺と明治大学の主催で開催しました。



・弘法大師・空海は、唐からわが国に初めて完全な密教をもたらし、本県の高野山に真言宗の総本山を開基しました。それ以来高野山はわが国の仏教の聖地として引き継がれ、その祈りの空間に現在もなお全国から参拝者が集まっています。また、日本全国に伝説が残るほど国民に親しまれた高僧は、弘法大師・空海以外ありません。



・南山進流声明で開幕したシンポジウムの冒頭、仁坂知事は、「日本人の心の真ん中には、やっぱり弘法大師がおられる。今日はその弘法大師の秘密に迫りたい。」と挨拶しました。その後、第一部として、宗教学者 山折 哲雄氏から「空海、現代に蘇る」と題した基調講演をいただき、「空海はいつも、人間とは何か。日本人とは何か。自己とは何か。という三つの問いに直面していたと思う。」と語りました。



・第二部として山折氏をコーディネーターに、作家であり高野山真言宗僧侶・高野山本山布教師でもある 家田 莊子氏、高野山真言宗宗務総長で総本山金剛峯寺執行長でもある 添田 隆昭氏、明治大学法学部教授で同大学死生学基礎文化研究所代表でもある 金山 秋男氏、そして仁坂知事がパネリストとなって行われたパネルディスカッションでは、「弘法大師・空海とは」、「高野山とは」というテーマを中心にそれぞれの思いが語られました。

・家田氏は、「高野山の奥の院で、よくエネルギーをもらっている。」と自らの体験を交えて話され、添田氏は、「いろいろな人が人生の苦難の時に弘法大師に救われたいという、そんな出会いの積み重ねが信仰をあらしめてきた原動力だと思う。」と紹介しました。金山氏は、「庶民に愛された空海は、八百万の神の化身であり、遍路をやるとそれがよくわかる。」と話され、また、仁坂知事からは、「空海には、真摯な真言の人、愛国の人、万能の人、希有な人の4つの特色がある。」と紹介しました。

・今回も約1,000人の参加者があり、「シンポジウムに参加して、是非、和歌山県の高野山に行ってみよう。」などの感想が多く寄せられ、弘法大師・空海、そして、和歌山県の魅力を広くPRできた一日となりました。県では、これまでも郷土の偉人を顕彰してきましたが、今後も県内外を問わず多くの人に和歌山の偉大な先人の業績を知ってもらい、和歌山への愛着や興味を抱いてもらうための事業を展開していきます。

・なお、高野山では、開創1200年を記念して4月2日から5月21日の50日間、弘法大師・空海が残した大いなる遺産への感謝を込めて絢爛壮麗な大法会が執り行われます。この大法会を中心に、その歴史、魅力を伝える催事が数多くありますので、是非、この機会に高野山へお越しください。詳しくは高野山金剛峯寺のHPを御覧ください。

<http://www.koyasan.or.jp/1200/index.html>

●「みなべ・田辺の梅システム」の世界農業遺産認定を目指してシンポジウム開催

・1月18日、田辺市のガーデンホテルハナヨにおいて、みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会(会長：小谷 芳正みなべ町長)の主催で、「みなべ・田辺の梅システム」の世界農業遺産認定を目指したシンポジウムが開催されました。

・世界農業遺産は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり発達し形づくられてきた伝統的な農業や土地利用法と、それに関わって育まれた文化、景観等を世界的に重要な地域として認定し、次世代へ継承することを目的に国連食糧農業機関(F A O)が2002年から開始したプログラムです。

・「みなべ・田辺の梅システム」は、養分に乏しい礫質の斜面を活用して、ウバメガシの薪炭林を残しつつ高品質な梅を400年にわたり持続的に生産してきた農業システムです。このシステムが斜面の崩落防止に役立っていることや、薪炭林に住むニホンミツバチが梅の木の受粉を担うなど梅との共生関係にあること等、地域の利用可能な資源を有効に活用して梅を中心とした農業で生活を支えてきたことが評価され、昨年10月に世界農業遺産に向けた国内候補地の一つに選ばれています。

・シンポジウムには、募集定員を上回る約330人が参加し、会場は熱気に包まれました。開催にあたり同協議会副会長である 真砂 充敏田辺市長が、「昨年5月に協議会を設立し、これまで順調に取組を進めてきた。今後は認定に向けて住民の皆様へ地域からの盛り上げをお願いするとともに、本シンポジウムをきっかけにさらにステップアップしたい。」と挨拶しました。その後仁坂知事が、「みなべ・田辺地域の世界的価値について」と題し、みなべ・田辺地域の梅生産の歴史や土地利用の特徴、梅の加工と機能性等について講演し、「これから世界に向けて県も地域の皆様と一体となって頑張りたい。」と意気込みをアピールしました。

・また、農林水産省世界農業遺産専門家会議の 武内 和彦委員長と 大和田 順子委員がそれぞれ講演し、「途上国を中心に始まった世界農業遺産であるが、先進国においても人と自然のバランスがとれた農業システムを通じて持続可能な未来を築いていくことは重要。世界農業遺産は活用する未来のための遺産。南高梅や備長炭は日本では誰もが知っているが、ミツバチやメジロが沢山いることは知られていない。地域の住民が知っている地域の魅力をどうやって地域の外の人に伝えていくかが重要だ。」と話しました。

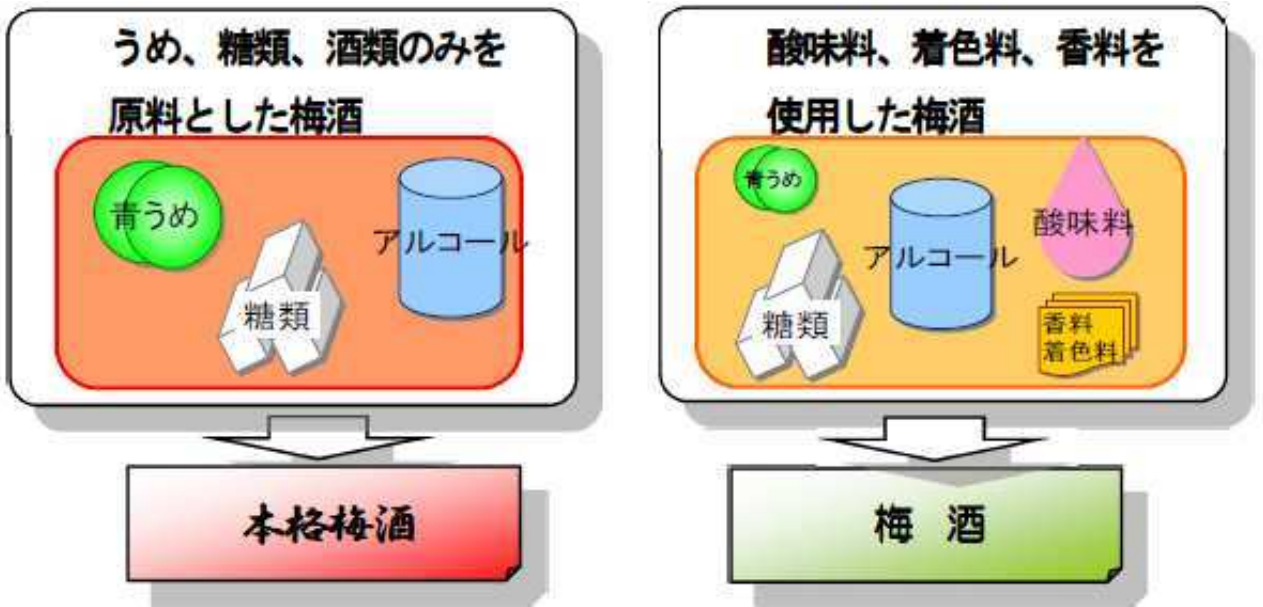
・引き続き、和歌山大学 原 祐二准教授の司会により、地元の関係者の方々が世界農業遺産にかける想いを発表し、最後には、同協議会会長の小谷芳正みなべ町長が、「皆様方の熱意を持って、この健康で長生きに貢献している梅の世界農業遺産登録に向けて頑張っていきたい。」と閉会の挨拶、世界農業遺産認定に向けた気運が高まる機会となりました。

・なお、同協議会はF A Oに認定を申請しており、2月中にも現地調査が行われる見通しとなっています。



●「本格梅酒」の表示に関する業界自主基準が制定

- ・1月23日、日本洋酒酒造組合において、うめ・糖類・酒類のみを原料とし、酸味料等を使用していない梅酒を「本格梅酒」として表示する業界内での自主基準が制定されました。
- ・現在、「梅のみを原料とする梅酒」と「酸味料等を加えた梅酒」がともに「梅酒」として流通していますが、消費者が誤認するおそれや梅酒の生産量増加が青梅の需要拡大につながっていないことから、県としても国に対して梅酒の区分表示基準の策定について要望を行ってきたところです。
- ・この自主基準は、日本洋酒酒造組合員に適用されるものですが、基準を満たしていれば、県内の梅酒製造事業者も「本格梅酒」の表示が可能であり、今回、この自主基準が設けられたことにより、青梅の需要拡大と紀州梅酒の販売促進につながることを期待されます。
- ・県では、市町や関係団体と連携しながら、県内梅酒製造事業者へ自主基準の内容を周知するとともに、消費者へ本格梅酒のPRを図り、県特産の梅や梅酒の需要拡大に努めていきます。
- ・皆さんも、県産の青梅を使用した県産「本格梅酒」をお召し上がりください。



(参考)

・梅酒の生産量は10年前に比べて約2倍に増加しているものの、青梅仕向量はほぼ横ばいとなっています。

	平成14年	平成23年	伸び率
梅酒生産量(k l)	20,395	39,141	192%
梅酒用青梅仕向量(t)	5,887	6,373	108%

※梅酒生産量：日本洋酒酒造組合調べ

梅酒用青梅仕向量：特産果樹生産動態等調査(農林水産省)

●「ふるさと祭り東京2015」に「わかやま紀州館」が出展！！

・1月9日から1月18日まで、東京ドーム(東京都文京区)において開催された「ふるさと祭り東京2015」に、県ブース「わかやま紀州館」を出展しました。

・この祭りは、日本の“元気”と“食”が集い、毎年多くの来場者で賑わう大型イベントで、県産品を首都圏の消費者にPRする絶好の機会となります。6回連続の出展となった今年は、県内11事業者が出展し、梅干しや果実加工品、水産加工品のほか、紀州うめどりをを使ったから揚げなど和歌山自慢の逸品をPR、販売しました。

・1月11日には、「わかやまの日」と銘打ったイベントを実施し、先着200名の方にあんぽ柿や観光パンフレット等をプレゼントしました。さらに、ふるさとステージでは、仁坂知事が、「和歌山には、果物をはじめおいしいものがたくさんある。また、今年は紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の開催や高野山が開創1200年を迎えるなど、和歌山が大いに盛り上がる年であるので、是非、和歌山県にお越しください。」と、来場者に向けて県産品と和歌山を大いにPRしました。

・その後、毎年好評を博しているマグロ解体ショーが行われ、今年も黒潮市場 和泉 圭紀さんの見事な包丁捌きが観客を魅了し、マグロの刺身が無料で振る舞われました。

・10日間で約42万人余りが来場する中、「わかやま紀州館」は行列が絶えず、通路にも人があふれるなど、多くの方々の熱気に包まれていました。

○出展事業者一覧

出展者	主な商品
紀州農業協同組合	tomato-ume、ミニトマト ほか
楽々果実工房	冷凍梅
株式会社 不動農園	梅干し
株式会社 岩谷	紀州梅真鯛梅 ほか
有田川町観光協会	みかんジュース、山椒カレー ほか
からあげまんぷく亭	紀州うめどりのから揚げ
株式会社 伊藤農園	みかんジュース ほか
有限会社 紀南水産	まぐろとろ炊き ほか
株式会社 丸惣	梅干し
北畑商店	笹寿司 ほか
株式会社 酒のかまくら	紀州鶯屋梅酒シリーズ

・県産品については、以下のHPを御覧ください。

○プレミアム和歌山ホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/061000/premierwakayama/>

○ふるさと和歌山わいわい市場ホームページ

<http://www.wakayamaken.jp/>



●日本たばこ産業が「企業の森」における森林保全活動の継続決定

・1月16日、日本たばこ産業株式会社(JT:東京都港区)が、「JTの森 中辺路」として参画している「企業の森」での森林保全活動を、今後10年間継続することとなり、森林保全・管理に係る協定の調印式を開催しました。



・「企業の森」は、企業や労働組合などの方々にCSRや社会環境貢献活動、地域との交流活動の一環として、県内の森林環境保全に様々な形で取り組んでいただく事業で、「JTの森 中辺路」は、JTが会社化20周年を記念して開始した森林保全活動の第一弾です。現在、同社は全国9箇所で森林保全活動を展開しています。



・調印式において仁坂知事は、「また10年間、企業の森を続けていただけることに大きな喜びを感じている。」とお礼を述べ、JTの宮崎秀樹副社長は、「1期目の10年で、伐採地が少しは森らしくなってきたなという感慨を持っている。また、地域の活性化という点でも協力できれば。」とこれまでの活動を振り返りました。

・平成17年から10年間にわたり、約53haの森林を対象に約18万本のヤマザクラ、コナラ、ヒノキ等を植栽してきたJTは、今後10年間の活動においては新たに整備面積を追加した約54haで、下刈り、除伐、間伐等を実施する予定となっています。

○「JTの森 中辺路」概要

実施地：田辺市中辺路町の山林 約54ha

(「企業の森」参画企業・団体中 第1位の活動面積)

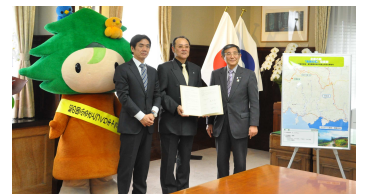
実施目的：事業を支える自然への感謝と企業の社会的責任の観点から、自然環境保全への取組として、全国で森林保全活動を実施

●和歌山県漁業士連絡協議会が「企業の森」に係る協定に調印

・1月29日、和歌山県漁業士連絡協議会(所在地：和歌山市)が、「企業の森」事業に参画し、「漁民の森」として森林保全活動を実施することとなり、調印式を開催しました。



・漁業士とは、漁業の発展や漁業後継者の確保、活力ある漁村社会の形成を図ることを目的に知事から認定を受けた漁業者で、同協議会は、漁業士相互の交流や資質向上などを目的として、県内の漁業士で構成されています。



・仁坂知事は、「串本町での企業の森は初めてであり、この活動が県内全域に広がってきたものと喜んでいる。」とお礼を述べ、同協議会 塩谷昇会長は、「紀南でできればと思っていたところに、県の紹介により場所を確認した。ラムサール条約登録地に注ぐ川の上流ということもあり決定した。」と場所の選定理由を説明しました。

・「漁民の森」では、海の恵みを守るため、漁業関係者により今後5年間にわたり植栽や育寿をする森林保全活動に取り組みます。今回の参画により、参画団体数は62企業・団体、活動場所は63箇所となりました。

○「漁民の森」概要

実施地：東牟婁郡串本町田並上田之郷地内の山林 約0.57ha

植栽樹種：ウバメガシ、ヤマモモ、クヌギ、コナラ等約1,000本

●「香港 食品・外食産業バイヤーミッション団商談会 in 和歌山」を開催

・1月29日、香港から食品・外食関連のバイヤー18社が来県し、(株)早和果樹園や中野BC(株)を訪問、生産現場を視察したほか、ホテルアバローム紀の国において、「香港食品・外食産業バイヤーミッション団商談会」を開催しました。

・この商談会は、県が昨年度、香港貿易発展局と締結した都道府県としては初めてとなる経済協力促進を目的としたMOU(覚書)に基づいて実施したものです。

・また、香港貿易発展局の マーガレット・フォン 総裁も来県し、(株)早和果樹園の訪問等の後、仁坂知事らとの意見交換会に出席しました。

・仁坂知事は、「香港は市場として、また中国本土や東南アジアのゲートウェイとしても非常に重要。今後も香港との経済交流を深めていきたい。」と今後の交流について期待を込め、マーガレット・フォン総裁も、「香港との経済交流を深めるため、今後も和歌山県と協力していきたい。」と述べました。その後も、和歌山県と香港との経済交流活性化について、活発に意見を交換し、相互の関係深化に繋がる機会となりました。

・商談会では、県内の梅酒、果実加工品、調味料、健康食品等の生産事業者18社が参加し、香港バイヤーに積極的に自社商品をアピールしました。バイヤーの皆さんからも商品のセールスポイントや健康効果、価格等について積極的に質問するなど活発な商談が行われ、今後の県産品の販路拡大が期待されます。



●中紀精機 株式会社が印南町しらこ工業団地に工場増設

・1月9日、中紀精機株式会社(本社：印南町)が印南町しらこ工業団地に工場を増設することが決定し、同社 林 俊男代表取締役社長、岡本 敏秀日高振興局長、日裏 勝己印南町長が出席する中、印南町役場において協定調印式が行われました。これで、平成18年12月以降の企業立地件数は133件となりました。

・昭和46年設立の同社は、電子機械部品の製造及び自動省力化機器の設計製作を目的として創業され、現在は最先端の電子部品を製造しています。今回、より高品質、高精度な製品を安定的に供給することを目的として、現工場隣地に新工場を設置する運びとなりました。今年7月に操業開始予定で、新規地元雇用者10名が見込まれています。



●「第44回 インターネブコン ジャパン」に県内企業が出展しました

- ・1月14日から1月16日の3日間、東京ビッグサイト(東京都江東区)において開催された「第44回インターネブコン ジャパン」に、県内企業が出展しました。
- ・この見本市は、エレクトロニクス機器に関連する製造技術・実装技術のアジア最大の見本市であり、国内外の半導体メーカー、自動車・電装品メーカー等との商談の場として定着しています。
- ・約1,800社の企業が出展(同時開催の展示会を含む)し、約8万6千人の来場で賑わう中、県内からの出展企業も自社製品を大いにPRし、販路開拓のために多くの商談を行いました。



○出展企業一覧

出展企業	所在地	主な出展製品
アイエムティー 株式会社	印南町	試料作製装置
株式会社 環境テクノス	和歌山市	超純水製造装置
恵和 株式会社	印南町	複合フィルム(光拡散シート等)
阪和電子工業 株式会社	和歌山市	静電気可視化装置
4Dセンサー 株式会社	和歌山市	全周形状計測装置
太洋工業 株式会社	和歌山市	静電気除去装置

●紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会に係る企業協賛及び募金感謝状贈呈

- ・1月13日、一般社団法人 和歌山県建設業協会の新春懇談会に先立ち、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会募金(きいちゃん募金)に多額の寄附をいただいた同協会 矢部 幸雄会長に、仁坂知事から感謝状を贈呈しました。
- ・また、1月21日には、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会企業協賛制度における「オフィシャルスポンサー」、「オフィシャルサプライヤー」に新たに決定した以下の企業・団体及び「きいちゃん募金」に多額の寄附をいただいた企業の方々に、仁坂知事から感謝状を贈呈しました。
- ・提供いただきました寄附金や物品は、両大会のボランティア活動や県民運動、大会運営に活用させていただきます。



○協賛企業

区分	企業・団体名	提供内容	出席者
オフィシャルスポンサー	三菱電機(株)	協賛金	冷熱システム製作所 石川 憲和 所長
オフィシャルサプライヤー	全国マツダ労働組合連合会	自動車の貸与	戸村 伸一郎 副会長
	(株)ウイルバーン商事	障害者スポーツ競技用具	山口 勇人 常務取締役
	(株)エスアールアイ	パソコン	浦 聖治 代表取締役

○寄附企業

企業名	出席者
(株)シュテルン和歌山	石井 博 代表取締役社長

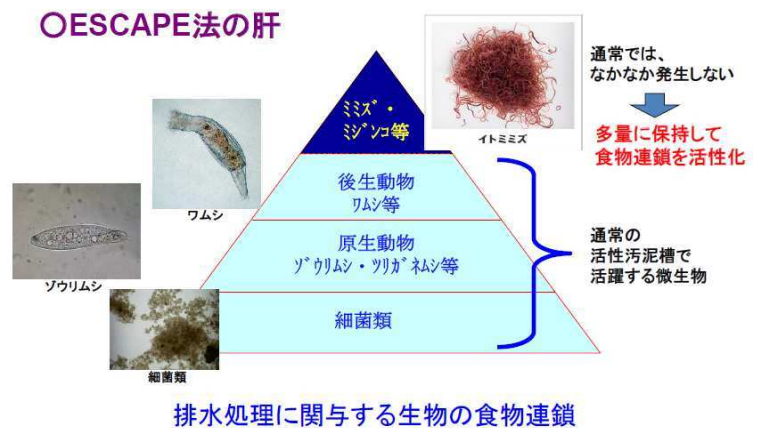
●「食物連鎖を利用したパイル担体活性汚泥法の開発」がネイチャー・インダストリー・アワード 受賞

・ 県工業技術センター 山際 秀誠主査研究員、オーヤパイル株式会社 大家 健司取締役社長、エコ和歌山株式会社 中田 祐史代表取締役の連名による「食物連鎖を利用したパイル担体活性汚泥法(E S C A P E法)の開発」が、第3回ネイチャー・インダストリー・アワードの技術開発委員会賞を、地方自治体の公設試験研究機関として初めて受賞しました。

・ 一般財団法人 大阪科学技術センターが主催(後援：日刊工業新聞社)するこの賞は、「自然に学ぶ」、「自然を利用する」、「自然と共生する」研究を対象とした若手研究者支援事業で毎年40件程度の応募の中から「O S T E C賞(新規性/独創性に優れた研究シーズ)」、「技術開発委員会賞(実用化の可能性が高い研究シーズ)」、「日刊工業新聞社賞(応用分野が広く我が国のモノづくりに寄与する研究シーズ)」が1件ずつ選ばれます。これまでは全て大学の研究者が受賞していました。

・ この技術は、排水処理の浄化槽の中に、県の地場産業である「パイル織物」を微生物の「すみか」として設置したことを特徴としています。これにより、温度や酸素の濃度を調整しながら処理設備内の微生物を活性化し、一般的な処理設備では発生しにくいミミズの仲間(排水処理における食物連鎖の最上位者)を大量に保持することで、食物連鎖を活性化します。そして、産業廃棄物となる汚泥を大幅に削減することを可能とした画期的な方法です。

・ これまでの実証化試験により、実際の排水処理設備で80%以上の汚泥減容化が維持でき処理費用も大幅に削減できることを実証しています。



パイル織物に食物連鎖の最上位者であるミミズを多量に保持
余剰汚泥の発生量を大幅に削減することに成功

●近畿連合和歌山県人会「新年互礼会」開催

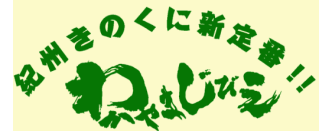
・ 1月25日、「平成27年近畿連合和歌山県人会新年互礼会」が、東天紅(神戸市中央区)において、神戸・京都・大阪・堺の県人会会員約60名が出席し、盛大に開催されました。

・ 来賓として出席した仁坂知事は、今年が高野山開創1200年や国体開催などで、和歌山が全国的に注目される1年になるということに触れながら、インフラ整備、防災対策、観光等県政の最新トピックスを紹介し、「ふるさと和歌山へ一層の応援を」と挨拶しました。

・ 会場内には恒例となった有田市と田辺市による物産紹介コーナーも設けられ、梅酒やみかんが出席者に振る舞われました

・ また、懇談の合間には、孫市の会による火縄銃の披露やジャズの演奏などもあり、和やかな新春の一日となりました。





今年も「ジビエウィーク」を開催します！！

- ・「食べるとわかる。わかやまジビエって、ほんとにおいしい！」

わかやまジビエの美味しさを伝えるため、シェフたちが腕をふるった「和歌山メニュー」を御堪能ください。

開催期間— 2月1日(日)～2月28日(土)の1ヶ月間

・ジビエウィークとは、県内で捕れた野生のイノシシ、シカ肉を県内の料理店で「ジビエ料理」として楽しむイベントです。今回で4回目の開催となります。

- ・ジビエウィーク参加店舗：料理店など76店舗・精肉店8店舗

※参加店舗など詳細については、下記のHPからパンフレットをダウンロードしてください。

http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/file/20663_0.pdf

・ジビエウィーク期間中、ジビエ料理を食べてアンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で豪華賞品のプレゼントもあります。是非、和歌山にお越しいただき、御参加ください。

和歌山のくんに新定番!!
わかやまジビエ!!

和歌山の自然をご堪能あれ!

ジビエウィークとは
和歌山県内で捕れた
野生のイノシシやシカ肉を
県内の料理店で
「ジビエ料理」として
楽しむイベントです。

Gibier Week 2015

わかやまジビエの美味しさを
伝えるためにシェフたちが腕をふるった
“和歌山メニュー”をご堪能あれ。

第4回

ジビエウィーク

“わかやまジビエ”ってこんなにおいしいってご存知でした?

開催日時 2015.2/1日～28日

開催場所 和歌山県内の各協賛飲食店及び宿泊施設

和歌山ジビエプロモーションチーム

主催 ● 和歌山県・株式会社JT西日本 和歌山支店 協賛 和歌山県 臨時特別基金活用事業 和歌山ジビエプロモーションチーム

イベント情報(2月11日～3月10日)

期間	行事名	場所	問い合わせ先
2/11	水門祭	串本町・水門神社	串本町観光協会 0735-62-3171
2/11	久野原の「御田」	有田川町・久野原岩倉神社	有田川町社会教育課 0737-52-2111
2/11	粥占い神事	田辺市・伊作田稲荷神社	田辺観光協会 0739-26-9929
2/14 ～3/3	南紀勝浦ひなめぐり	那智勝浦町・ 紀伊勝浦駅前商店街ほか	南紀勝浦ひなめぐり 070-5645-8195
2/15	市町村対抗ジュニア駅伝	和歌山市内	同実行委員会 073-441-3695
2/15	南の国の雪まつり	那智勝浦町・役場前	南紀くろしお商工会 0735-52-1089
2/22	花園の御田舞	かつらぎ町・遍照寺	かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
2/26	粟生のおも講と堂徒式	有田川町・吉祥寺薬師堂	有田川町清水行政局 0737-52-1089
3/1	高野の火祭り	高野町・金剛峯寺前	高野山観光協会 0736-56-2468
3/3	雛流し	和歌山市・淡嶋神社	淡嶋神社 073-459-0043
3/3	流し雛	紀の川市・粉河寺	紀の川市文化協会 0736-73-3312
3/7	加太の桜鯛祭り	和歌山市・ 加太おさかな倉庫	加太観光協会 073-459-0003



第20回を迎える「南の国の雪まつり」。冬でも暖かい勝浦に雪山が出現。雪遊び体験、雪像コンテストなど多彩なイベントや紀南地方の特産品の販売等が実施され、多くの人で賑わいます。

自然・風物情報(2月中旬～3月上旬)

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
2月中旬	梅林満開	みなべ町・南部梅林、岩代大梅林	みなべ観光協会 0739-72-4949
		田辺市・紀州石神田辺梅林	紀州田辺観梅協会 0739-22-5300
2月下旬	ハウス栽培のモモ開花	紀の川市・桃山町	あら川の桃振興協議会 0736-66-1259
3月上旬	シロウオ漁はじまる	湯浅町・広川河口	湯浅町観光協会 0737-63-2525
3月上旬	アワビ・トコブシ漁解禁	串本町・宝島海岸	和歌山東漁協津荷支所 0735-72-0030
3月上旬	アマゴ漁解禁	田辺市・熊野川	熊野川漁協 0735-21-4193
		古座川町・古座川	古座川漁協 0735-72-3800
3月上旬	こも外し	和歌山市・和歌山城公園	和歌山城管理事務所 073-435-1044
3月上旬	イチゴ狩り開園	紀の川市・貴志川町	貴志川いちご狩り協会 0737-64-7212
		かつらぎ町	かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
3月上旬	ツバキ見ごろ	紀の川市・桃源郷運動公園	紀の川市農業振興課 0736-73-3311



みなべ町には、南部梅林と岩代大梅林があります。

南部梅林は、「一目百万、香り十里」といわれるほど、なだらかな山々に見渡す限り梅林が続き、名実ともに日本一の規模です。岩代大梅林は30haの広大な梅林に約2万本の梅の木が広がり、満開になるとまるで白いじゅうたんを敷きつめたような美しさとなります。

梅林では、1月下旬から2月下旬頃までが開花の時期で、白い花の雲が山全体を包み、スケールの大きな観梅が楽しめます。

紀州石神田辺梅林は、田辺市を代表する梅林で、その広大な梅畑は「一目30万本」と謳われます。また、標高約300mと梅林としては近畿屈指であり、そこからすり鉢状に梅畑と里山を臨むローケーションが最大の魅力です。遊歩道で「大蛇峰展望台」まで登れば、太平洋を遠景にさらに広がる雄大な景色を見渡すことができます。



～編集後記～

暦の上で春を迎えたとはいえ、まだまだ厳しい寒さが続きますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

国体冬季大会が群馬県で開幕し、いよいよ男女総合優勝に向けての熱戦の火蓋が切つて落とされました。記事でも紹介しましたが、ここまでの結果は、去年の同時期を上回る19位と幸先のよいスタートが切れました。2月20日からは、スキー競技も始まりますので応援よろしくをお願いします。

こうした中、年明け早々少し心配なニュースがありました。県内唯一のプロスポーツチーム・バスケットボールの「和歌山トライアンズ」が消滅か、と報じられました。去年は準優勝とその大活躍は記憶に新しく、元気を与えてくれただけでなく和歌山のPRにも一役買っていただきました。二転三転した結果、チーム名もそのままに存続が決まり、ひとまずは安心してるところです。県民の皆さんのチームを残したいという熱い思いが、リーグを運営する日本バスケットボールリーグに届いたものと思います。

しかしながら、予断を許さない状況であることには変わりはなく、とりわけ財政面からの支援が必要不可欠な状況となっています。チームの存続を願う皆さんの御支援、御協力が必要です。リーグ戦が全国各地で実施されていますので、是非皆さんにも会場に足を運んでいただき声援を送っていただければと願っています。会場に一人でも多く応援に行っていただくことが、チームの存続に直結しますので、私も精一杯応援したいと思います。

そして、もう一つスポーツの話題で、桐蔭高校の選抜高校野球大会出場です。懐かしく思われる方も多いと思いますが、夏も春も第1回大会から全国大会に出場している全国屈指の伝統校です。選抜大会には実に53年ぶりの出場と、私も前回出場時のことは当然記憶にありませんが、今まで練習してきたことを信じて思い切りプレーし、和歌山に爽やかな春風を届けてもらいたいと思います。和歌山県勢は、ここ数年甲子園ではあまり成績がよくありませんので、皆さんの御声援をよろしく願いいたします。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等をお願いします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2015年(平成27年)2月 NO.82

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022